

(様式第4号)

上田市総合計画審議会（第4回厚生・教育部会） 会議概要

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第4回厚生・教育部会）
2 日時	令和7年6月26日 午後1時45分から午後2時40分まで
3 会場	市役所本庁舎 2階 202・203会議室
4 出席者	荒川玲子部会長、鳥羽泰之委員、永井理恵委員、高橋比呂美委員、城田真裕委員、関綾音委員、中島冬陽委員、
5 市側出席者	長田福祉部長、山賀健康こども未来部長、池田教育次長、柳沢福祉課長、上田障がい者支援課長、西澤高齢者介護課長、櫻井健康推進課長、小林地域医療政策室長、坂口国保年金課長、久保田保育課長、加々井子育て・子育て支援課長、町田教育総務課長、宮原教育施設整備室長、渡辺学校教育課長、小須田学校保健給食課長、佐藤生涯学習・文化財課長、田中中央公民館長、金田上田図書館長、坂部上田市立博物館長、内海学園都市推進室室長補佐兼学園都市推進担当係長、春原福祉課指導監査係長、前沢健康推進課健康政策担当係長、弓掛教育総務課企画担当係長、松澤政策企画課政策企画担当係長、岩佐政策企画課主任
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年8月22日

協 議 事 項 等

1 開会（柳沢福祉課長）
2 部会長あいさつ（荒川部会長）
3 議事
(1) 第三次上田市総合計画前期まちづくり計画（案）について
・資料に沿い、前回意見及びパブコメへの対応状況（第4編）について説明
・以下、質疑応答
(委員) 上小地域は県全域で見ても医療人材が不足しており、市の協力を得ながらどうにか看護学校を維持していこうとやっている。そうした中、保育士不足に対しては、努力して人材を集めているところと思うが、どのように集めるか対策はあるか。また、県内で保育士が足りているところがあるのか、上田市だけが特別不足しているのかななどの状況はどうか。
(事務局) 上小地域の保育士育成校に出向き、保育の現場を伝える機会を設けたり、今年からは職業体験を行ったりするなどしている。短期のアルバイト的な雇用をして、実際に保育の現場を体験してもらうメニューを増やすなど、学生の段階で保育の現場を見ていただく機会を増やす努力をしている。この成果がどの程度出ているかは先の話になってくるので難しいところだが、別途ハローワークや社会福祉協議会でも、保育士資格を持つが現在は保育士として勤務していない方の掘り出しができないか、そうした方の就職につなげられないかということで、相談会を開くなどの行動を起こしている状況。
保育士の不足に関しては、細かいデータはないが、どの自治体からも足りていないとの声を聞いている。特に3歳未満の入園希望が増加しており、3歳未満児については、園児一人当たりに必要な保育士数が多く、全体的なバランスを見つつ、施設面、人員面でどの程度準備が整えられるかというところで苦慮している状況である。
(委員) 保育制度について詳しく知らない方もいると思う。ただ定員で保育できないということではなく、どうしてそのような状況なのかという説明もあると良いと思う。

(委 員) 保育園の入園申し込みは 11 月にあるが、4 月以降にそれを知らなかった保護者からの入園申し込みが多い。保育課にも問い合わせがあると思うが、各園にもたくさんの問い合わせがある状況。11 月に入園申し込みがあり予約を受け付ける、ということを含めてもう少し丁寧に説明してもらいたい。育休を明けた保護者が実際に申し込めていないということも耳に入ってくるので、保育士不足に加えて大変ではあると思うが、もう少し丁寧な説明をお願いしたい。また、今後は「こども誰でも通園制度」が始まることもあり、誰でも保育園が体験できるということをしつかり周知してもらえると良い。

(事務局) 頂いた意見を参考に、情報が伝わる方法を検討しながら対応していきたい。

(委 員) この春に上田市で乳児の遺棄という痛ましい事件があった。このようなことを二度と起こさないように、「にんしん SOS ながの」について、もう少し力を入れて市民にも広めてもらいたい。また、長野県の制度だけではなく上田市としても独自にこのような機関があると良い。

(事務局) 県の設置事業ではあるが、まだまだ知られていないことがあり、校長会や幼保小中連携会議、養護教諭の連絡会などがあるので、そちらで周知を図っている。また、養護教諭自身もそちらで相談できる体制がとれているので、そうしたところと連携を図りながら周知を行っていききたい。

(委 員) 子育て・子育て支援課で、小学 5、6 年生と中学生向けにヤングケアラーの調査を行うと聞いている。実態把握についてはこれからという状況だと思うが、計画に載せられるのであれば載せてもいいと思うがいかがか。

(事務局) 今年度初めて実態調査を行っていく状況で、その調査を踏まえて今後市でどのような対策が必要か、支援体制をどうするかということを検討していきたい。まずは実態調査の結果を踏まえる中で、支援策を検討していきたいという状況なのでご理解いただきたい。

- ・資料に沿い、前回意見及びパブコメへの対応状況（第 5 編）について説明
- ・質疑応答なし

- ・決定事項：本案を採用とし、最終答申とする。

(2) その他

(委 員) 漢字の表記の仕方と送り仮名について、114 ページの下から 2 行目、丸 3 番の中に、「愛着を持つ取組」という言葉があるが、次の 115 ページの上から 2 行目、4 行目には「取り組み」とあり、ひらがな漢字の送り仮名の表記が統一されていないところが見受けられた。こうした細かいところ気になる方もいると思うので、再度見直していただき、送り仮名等については整備をお願いしたい。

(委 員) 資料 1 の 117 ページ、施策の方向性・展開の中の基本施策 2②の部分で、「未来を創造できる人材」という言葉があるが、未来を創造できる人材というのは具体的にどういった人材を考えているのか。少し抽象的と感じたので、もう少し何か具体的に書くとわかりやすいのでは。

(事務局) 総合計画自体が総体的な計画となるため具体的な表記はしていない。令和 8 年 4 月から長野大学に理工系学部の情報共創科学部という学部が新しくできる。情報系の学部を新設するところだが、総合計画にも表記があるように、人工知能 AI を適切に応用できる理系の人材を、これから上田市の方でも教育し輩出していきたい。未来創造できる人材については、企業、大学と連携して、企業としてはどういった人材が欲しいのか、大学としてはどのような人材を育成、輩出していくか、ということを検討している状況。来年 4 月から新しい学生が入ってきて、4 年後には上田市の企業を支えるような人材も輩出できればというような思いもありこういった記載をしている。